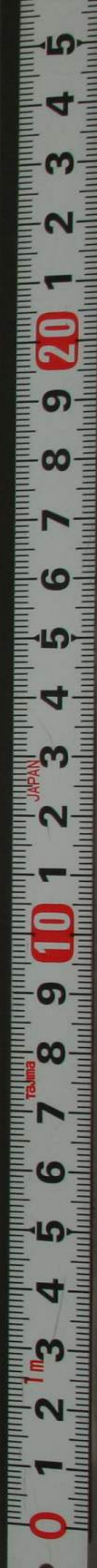


里見八犬傳

第六編  
卷卅八



13  
709  
89





門通 18  
 號 709  
 卷 89



明治三十八年  
 十月九日  
 購求

南總里見八犬傳第九輯卷之二十八

東都 曲亭主人編次

第百六十四回

一虜を挾々現八橋梁を断り  
 火緒を放々信乃戰車を焼く

却説その時下總より國府臺の城小敵と候り兩個の防禦使大塚信乃成孝  
 犬飼現八信道の東六郎辰相杉倉武者助直元田税力助逸友等と共に義  
 通御曹司不俱一まゝりて十二月二日の未下刻臺の城小來り程上總下總の路次小  
 きて御士御民の催促の後村が漸次不附從ふ者あり亦尠きなり初九千餘  
 名より軍兵小加えて一萬二千を多しける。然而這國府臺より守城の頭  
 人真間井樞二郎秋本継橋綿四郎喬梁と喚做さ者この朝より士率を領て  
 城を攻む。義通君と迎せられ義通則二天士並不戸相直元逸友等と士卒と

八犬傳九輯卷之二十八

後集



い ちやうど 秋 季 高 梁 小 仰 光 美 あり 當 城 の 軍 兵 四 百 餘 名 を 終  
おの 頭 人 の 隊 小 附 城 の 衛 備 備 けり 當 晚 人 馬 の 疲 勞 を 總 へ 次 の 日  
軍 議 を 定 め る 義 通 の 只 出 席 あり 尚 髯 歳 多 かり 辰 相 萬 事 小  
後 見 たり 天 士 並 直 元 逸 友 秋 季 高 梁 小 仰 光 餘 從 軍 の 老 兵 勇 士 席  
末 小 侍 者 若 者 登 時 東 辰 相 天 士 小 向 ひ けり 昨 日 地 小 來  
身 程 小 先 間 謀 見 たり 敵 の 動 靜 を 務 め せり 小 向 地 小 寄 隊 の 大 將 山 内  
顯 定 主 と 足 利 成 氏 主 中 副 將 の 顯 定 の 嫡 子 上 杉 五 郎 憲 房 是 多 相  
從 西 家 老 の 旗 頭 長 尾 判 官 景 春 白 石 城 小 重 勝 寄 我 の 老 黨 横 堀  
史 在 村 新 織 帆 大 主 素 行 們 技 擧 げ 不 違 けり 中 小 景 春 小 來 會  
甚 だ 諸 隊 の 軍 兵 三 萬 餘 騎 日 暮 五 十 子 の 城 小 隊 分 して 當 城 を  
攻 伐 せ せ 云 風 聲 既 小 夢 たり 意 小 這 國 府 臺 の 一 城 小 是 暴 河 を 帶 小

あ 要 害 堅 固 する 地 小 縮 めて 籠 城 して 敵 を 待 ち けり  
老 然 暴 河 を 前 小 敵 の 涉 せ 央 と 敷 小 或 河 を ち 涉 多 敵 所 小  
因 之 防 人 之 議 什 麼 と 談 され 天 士 听 信 乃 小 下 回 寔 小 野  
以 前 約 大 河 を 前 小 敵 と 防 戰 へ 其 利 あり 小 似 され 治 兼 小 頼 政 元  
曆 の 義 仲 又 兼 久 の 官 軍 小 至 る まで 宇 治 の 大 河 を 前 小 橋 と 断 ち 流 を  
負 小 一 要 時 小 戰 小 寄 隊 河 を 涉 小 及 び 破 破 され 小 者 一  
今 這 地 の 暴 河 小 世 の 人 阪 東 太 郎 と 稱 して 宇 治 河 小 優 る 急 流 あり 今  
冬 小 盡 小 水 涸 され 淺 淵 あり 這 回 亦 寄 隊 の 陣 小 高 細 忠 細  
太 郎 小 相 似 たり 勇 士 あり 必 涉 され 他 既 小 犀 象 の 波 を 披 けり 岸 小 就 小 勢 小  
我 小 中 小 誰 小 克 防 小 現 八 小 俱 小 約 這 葛 飾 小 郡 小 當  
家 自 得 小 新 領 小 定 正 王 橫 領 して 千 葉 自 胤 小 隸 小 俣 小 矢



新河をうち勝して我々葛西不寄隊と待つとも敵敵地を犯さず勿論宿老  
御曹司不従ひまうと當城を守り來べし我々兩個の防御使は明日の風を河を  
渉きて我々敵と防ぐべしと我々をうち勝て直元逸友秋香も吾同深も皆この議を  
可と稱し俱辰相不薦めりやう防御使の意見度其理あり我々先鋒と  
ま欲まの仰付さるべしと請へ辰相點頭て目今天の議を所愚意も亦相同  
則雄兵五千と二天士の隊不隸ん杉倉田税兩頭人二天士不従ふて俱二陣  
我々一又真間井継橋兩生の素より守城の頭人九の姑且御曹司不従ひまうと  
後の加勢さうと云衆議既定まりと義通君うち聴て防御使河をうち渉し  
前岸不敵と待て我々亦旌と我々俱不後陣不備ん我身幼少るれば大江  
親兵衛の年兄る不這地の徳大将でありまう敵の旗ととも見るを徒阿  
容々々と這一城の蓋り在ん本意をまと怨む如く宣へ辰相へ河とをさう不

答難く遠く信乃と現八を見えとあはれん天士も亦容  
易不議せむ沈吟と信乃が恐る御曹司尚怒角や御坐せども御  
父祖不劣りぬまう知勇の御本性自然に知り目今の御説畏るも感服仕  
ひひ信乃の父も寄隊の當所不到然と今仇々城を離れ河を渉して  
我々敵と逆へる風を吹くやいむと現八も膝を我々成考が直原に美り愚  
意も亦異るまう臣も先前岸不敵を待て寄隊を來る中一にて其強弱を先  
試ひん寄隊の勢ひ剛くあう閉戦難義通の折ふと御出陣を請まうべし  
あれと辰相點頭て義通不稟を御出陣のりも御説理のりも  
約軍陣の進退の豫館の御下知あり事皆大氏不儘と定まをひりや權且  
御意を枉れぬ那議不結せぬと詞穩く諫れ義通只得信容まう前  
議不従ひぬの大家其温順寛裕と稱す欽さるるけり介程不の地へ寄

伏見傳記

伏見傳記



隊の両大将鎌倉の管領山内頭定前関東管領足利成氏並副將上杉  
五郎憲房相従其隊の偏將白石城八重勝齋藤兵衛太郎盛実  
横堀史在村們と俱小三萬五六千の軍兵を得る。十二月五日の早旦五十九子の城を  
うちかゝる水路と千任河の瀬より下總國葛飾郡瓶蟻の頭造と陣を程  
這水陸の路次ありて其地々々の野武士兇民の勇あつて名を好む者或は迹を慕  
ひたり或は去向を立迎へて皆頭定の隊に屬し六甲乙士卒四萬餘ある勢は弥  
振然と懸而山内兵部大輔頭定の這日先間諜見と箭所河の上遣して圍  
府臺の城の虚実を撈らざる敵の大將里見義通と東辰相後見して圍府臺  
籠城する。従ふ兵四五千あるべし。他の防禦使犬塚信房大飼現八も村倉直元  
田税逸友們と俱前所河をうち渉して五十四田の邊に陣し是も亦其隊の兵  
五六千あるべしとの事紛れもる。頭定隨即成氏と請招り重勝盛実在

村等と召集へる敵の動靜を固様々々と具し生口且の意を思ふも似たりけ。  
此地の敵小勢之他等尚一致して要害を據り、敵所を断室に俱籠城して  
我を防ぐ日損傷ありとも猶半月の柱をたて、然ると何ぞや。今一萬の小兵を  
分ちて河を渉して我を防ぐ。螳螂の車を避け、夏虫の火に入るを似たり。我大兵一  
たび蒞まが一挙して伐破らん。石を卵を推まらぬも易く候べし。余のあれども嘗  
聞く那二大士等の奸雄あり。且智術ある者あり。然るもりの利害を知りて漫河を  
うち渉して水と背あり。我を待んや必計る所あり。那韓信が裏沙の術亦思ひ  
むらむらべらば。この故に我逆より製作する。必勝の戎具あり。正令是をりて連ねて他を  
破るべし。我嘗昔唐山古昔の軍旅を思ふ。周末戰國の時までも皆足車戦を宗と  
せり。今も軍と云陣と云其字車に従ふ者。然ると秦漢より後。敢亦戰  
車を用せ。但三國の時諸葛亮孔明。西輪車を棄りて。古風を則る。似これ

八代傳見詳卷三十一  
四



とも用意戰車と同らうを我大日本の神代より軍陣に車を用ひ是を知る者も  
 ありとも今も那法則を推考し戰車を作り敵中から非如堅陣鐵壁とも  
 破れざることを候べしと思ひければ豫より匠の課し戰車を造らせ情々地士卒の  
 教を調煉已ふ事成り折憶を當陣に臨む及べ我鎌倉を折齋藤高  
 実の吟唱て件の車數百乘を後組せ海に浮り科草浦に在せらるる今朝我  
 船を推續せ漕せ當所執寄る是見えと誇貌の説示し画圖取  
 取出るやと席上より用け成氏に村素の爲濟我の君臣の殊更に耳新に  
 心地し膝の杖む覺ぬまを齊一其画圖を見る車の高四尺を俗云八  
 車小似るるを二輛相連せり一車を開か上勾欄あり是は相乗れる武者一十  
 二名其六人の前在り六名の則後立て是中央の弓あり左右の則銃あり  
 馬六足をりこれを行し車の左右の兩個の御者あり鎗を扱え鞭を執れる人の

あり馬も皆薄鐵の面車馬鎧を透間あり身を振ける用心なる用を成  
 氏並不在村等の奇也々々と稱讚を當下頭定便面とて畫圖を指示あり  
 父唐山あり今も昔も馬車を架せ牽まれる皇國を牛車のまわす昔より  
 馬を要せを然れどもよく習せれば我邦の馬とて車と牽治るあり壁言北狄の  
 狗兒より雪舟を牽くか如く習ひの性なるもヨリり且馬の奔走神速を軍  
 陣至用の物なり我馬は皆車を行ふ不熟なるを這回ヨリ牽せりと解れて成氏  
 感して已まを史什麼と見れば在村も俱く感服して現未曾有る御外東の  
 名を何と呼びやと問へ頭定含笑て然りとて我這戰車を摩して造り果せ折命  
 けく駢馬三連車とて是馬を駢せ車と連して要を成を其議をいふ小本を  
 るの因て我又意不甚西假名町新驛の間あり或左右の樹粒敏系く或る左  
 右の水田あり路一條ゆく衛垣とて是は我駢馬三連車を用ふ不究竟の地方



あはれ  
顕定 騎馬  
えれん  
三連車と  
作る  
る

八代傳九郎景季

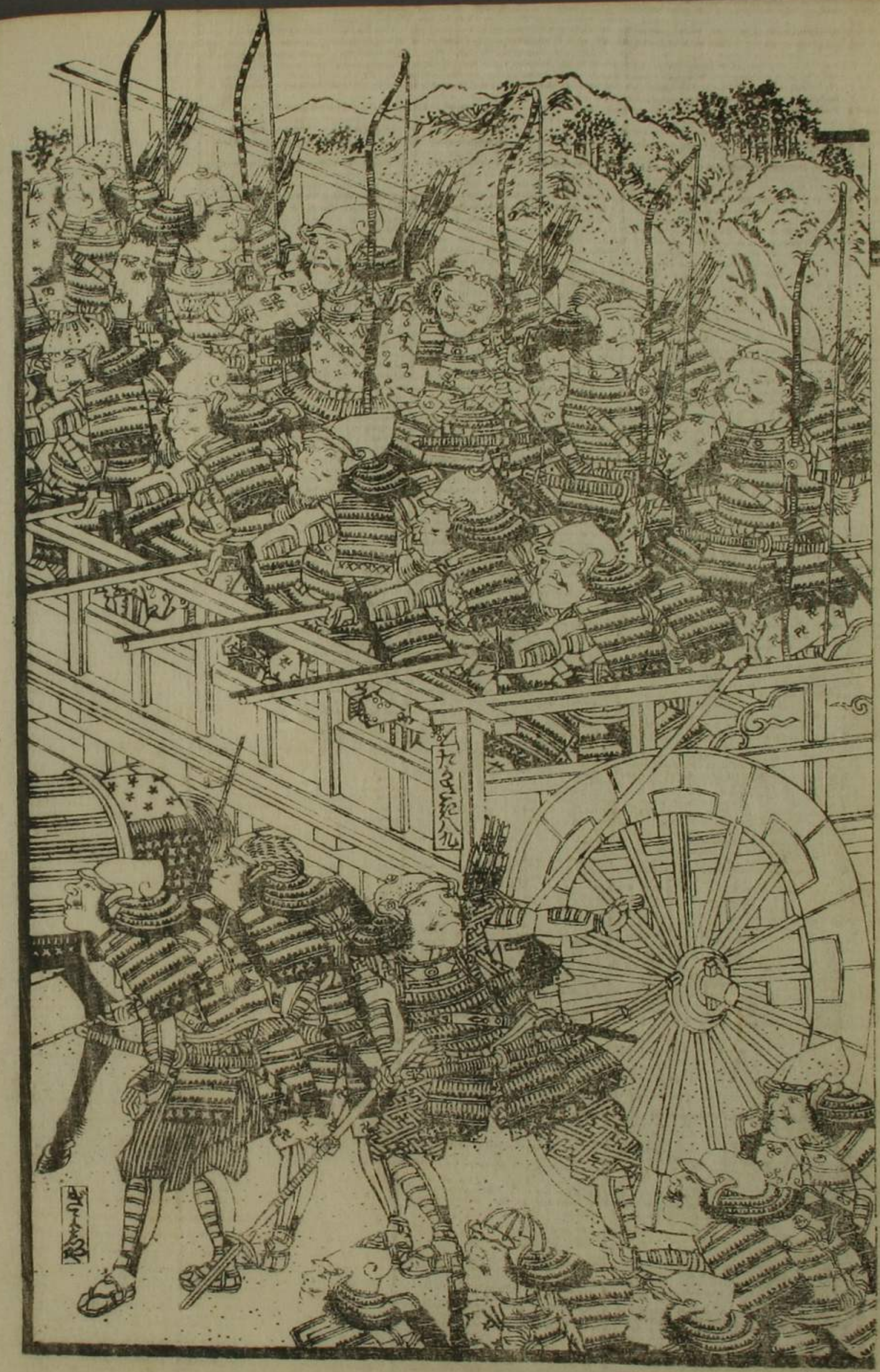
六

大坂屋敷



英泉馬

あつみの五六



八代傳九郎景季

大坂屋敷

あつみの五六



あまきりこわのでかひけりぬる。明日の那里へ推せし。那二大氏を衄せし先や隊配と做さし。白石重勝とせん。錐布五郎鷹梨八九郎と其隊の副と成氏則後陣と。當我老黨横堀在村新織素仍近臣科草七郎望見一郎等是は從ふ總大将顯定副将憲房ハ一萬五千の士卒とわく。其中中央在り又齋藤盛実を駢馬三連車の摠轄とて調煉熟得の雄兵三千五百餘騎をりて進退宜く機臨とて敵と數多破れと下知せける。摠軍約莫四萬餘名十二月六日の早旦飛蟻より推出して新驛假名町の間身。曠野を造り陣けり人の勇馬ハ嘶く兎の星ハ晃りたる。曉残る霜相赫亦氷做と刀劍ハ毛骨竦然寒風ハ殺氣中天を掩ふる威勢破竹ハ異る。泰主八十餘萬の大兵長く駟江を渡して東晋を吞ま欲さ。那時も似る。余程ハ五十四田の陣敵と待り大塚信乃成孝大飼現ハ信道ハ夙く斥候の注進小因り。寄隊の大將顯定成氏の總軍四萬の

大兵をりて昨日飛蟻ハ着陣ある。今朝ハ假名町の邊まで推せし。其の既ハ其告あり。信乃ハ隨御現ハと商量して且直元逸友等の諸頭人ハ其の勇を示さく。信乃ハ寄隊四萬五千の大兵ハ自家の士卒と比し。僅ハ是ハ何か一奇とて是を破らる。全勝とほる。あつとも王者の軍ハ敢奇偶を做さし。仁人君子の敵ハ過るも德地とらん。是ハ我君の御本意左され。右まれ中一中敵の剛柔巧拙を試し備勝とて退き計ると。選ばあむ。我聞ぬ新驛假名町の間身左右ハ水田あり林原あり路一條とて廣くね大軍ハ進退ハ必不便る。寄隊其里推せし。我を誘引ま欲さ。情地ハ計る所あり。非如聞戰勝ハ乘るとも漫功と貪りて必逃ると趕ふ。只防とて要と做さ。後至りて全勝とほん。先よ其の意をいひねと言叮嚀ふ。敬言ハ直元逸友等皆兼服也。其隊配也。從ひける。德而這詰朝信乃



現八尺伐を敵と逆んを。杉倉直元を先陣とて。國府臺の守城の小頭人等  
 け。湘陰島の子内源照俱教二と副とて。隊の兵二千餘名の將とて。又田税逸友  
 兵一千と從せ。遊軍とて直元們的次在。信乃現八尺。各一千餘名とて。俱  
 後陣を續け。余程の島西新驛假名町の邊で。兩敵風相臨と。込戰  
 鼓を鳴らし。且箭を渡り。鉄砲を連放り。挑戰の程。もあ。寄隊の先陣  
 白石城介重勝の敵の小勢と見え。破るふかたあり。と思。馬上小麾うち揮  
 兵毎伐め。言。獲。其。左右。從。小頭人。雖。布。五。六。郎。雁。鳥。裂。八。九。郎。鐘。城  
 拈。馬。を。馳。り。數。千。の。隊。兵。共。侶。小。競。り。蒐。る。虎。彪。の。勢。當。る。も。あ。ら。う。と  
 杉倉直元。毫。も。怯。ま。さ。ず。子。内。俱。教。二。相。共。隊。兵。齊。一。駈。合。せ。て。陽。開。け。閉。り  
 閉。る。魚。鱗。鶴。翼。隊。を。亂。れ。射。れ。も。突。げ。も。物。も。せ。ま。り。刀。尖。銳。り。け。れ。寄  
 隊。の。憶。を。殺。顔。され。一。町。許。退。く。直元。の。敢。赴。の。豫。信。乃。の。教。言。あ。れ。馬。を

駐。め。士。卒。を。制。し。て。姑。且。息。を。吻。程。小。去。向。連。る。柱。樹。の。陰。より。敵。の。暗。箭。と  
 か。り。て。裏。然。と。し。て。四。下。の。响。く。鉄。砲。の。音。と。共。推。り。て。必。ず。頭。定。の。准。備。は。奇。巧  
 行。志。所。云。駢。馬。之。連。車。と。幾。衆。と。牽。蒐。々。直元。們。の。一。隊。向。ひ。て。前。鐵  
 砲。透。間。も。路。と。塞。が。攻。寄。先。の。直元。子。内。俱。教。二。們。の。驚。を。今。中。に  
 引。退。ん。の。さ。ま。あ。り。俱。小。士。卒。を。勵。り。力。を。勸。め。防。心。戰。ふ。程。も。あ。ら。う。寄。隊。の  
 先。陣。白。石。城。介。重。勝。の。機。と。見。て。風。取。て。返。り。錐。布。鷹。鳥。裂。共。侶。小。車。戰。を  
 幫助。て。攻。ん。と。登。時。里。見。の。遊。軍。も。田。税。力。助。逸。友。の。為。体。心。慌。て。隊。兵。を  
 找。め。直元。と。援。け。戰。車。と。數。を。破。ら。ん。と。備。る。去。向。の。茂。林。の。裏。より。又。推。出。せ  
 敵。の。戰。車。の。憶。を。路。を。遮。り。て。一。歩。も。找。む。と。口。得。前。多。車。の。逆。ひ。く。數  
 退。け。と。角。へ。も。又。推。出。推。出。と。車。極。め。り。退。友。の。隊。兵。と。俱。前。後。左。右。と  
 圍。ま。く。出。死。路。の。け。り。況。や。杉。倉。直元。の。湘。陰。島。振。照。二。士。と。俱。口。其。駢。馬。之



連車小鉄壁の像く圍れて前中後と掃ひ右と遮り左も返せど齋藤盛実修  
煉してより車を行るのまゝ車上の雄兵御者も連車齊一その機小稱あ  
弓箭鉄砲の透とあまの近つ敵と鎗と撞し定より鬼れが盾も隠る進退  
精妙奇兵の術直元が二千の軍兵及逸友が二千の隊の兵さへお拘れ百と向た  
よりもゆく身は只敵の的お做りて痛を負ふ者ぞまかりけり有徳程犬塚信乃  
犬飼現八も相距る二三町備を建後陣小在り寄隊戦車の奇巧をり  
自家敗軍小及ぶ死事の勢ひ小駭然る信乃の現八を招けていやう今直元逸  
友們を殺ま欲まふ路一條ゆる廣く横鎗と入れかかり箇様々小計  
ひてん續たぬといそが馬小鎗と校と一千有餘の隊兵をわく胡意明々  
地小大路と適うる側の茂林小入り敵の戦車の後小出くうち破らんと走  
る後方小續く現八も隊兵一千百十數名樹柱も路の凸凹も擇まをのそ騎

馬歩兵後ろ者へるの信乃の真先馬を找りて夙く戦車小近つ程小  
齋藤盛実其機を查くと茂林の盡路と横断る其隊の兵二千出伐  
んと備へし信乃のうら見て毫も機謀せを群立敵馬乗入る鎗の尖頭と  
電光の品小碎る勢小従ふ士卒も死と見えと踏入々々攻麻非けたる刀頭銳  
うらぬもきれば盛実の隊兵と俱小憶ぎも碎易く其路颯と用けし信乃が  
一隊の衝と走脱て逸友們が圍れる數十乗る車の後より車上の敵を  
斫落し馬を斃し車と摧く勇士猛卒力を勦せんと盡くす棒小其一  
方を殺類され敢近つ敵を退くは退くは路開け小けり當下信乃ハ聲高  
や杉倉田税自餘の人々益の閉戦走へるぞ我小續けと喚り隊兵を  
圍めく決然と人るは御を立出く人るは御小還るが如く敢憚る氣色をけれ  
直元逸友のへりて潤就鳥古内振照俱教二両隊の士卒の氣をゆる



復生とて。と歎びの瞳と旋して退かざる。白石重勝見らるる堪也。鎌布鷹  
裂衣と共侶。又只戦車と推找めて追殺す。目今信乃打推れる車  
横り人馬轉輾多。戦車自由の轉らば。亟に趕ふこと。はるけり。介程大飼  
現八信道。剛才齋藤盛実。大塚信乃。推破られて。不覚。他を過せし  
恥をやる。小思ひ。怯れ。隊兵を装返して。猶も趕す。欲せし。やをれ。事  
嘆き。馬を真先。先走せ。隊兵を找り。殺立。盛実。隊の兵。より。久も  
又現八。一千の雄兵。散散。され。備班。お。做り。現八。竟。盛実。と。鎗。と。合。せ  
つ。一。上。一。下。と。戦。ふ。と。久。し。く。盛。実。已。不。勢。究。り。鎗。と。真。理。と。較。も。落。さ。れ。怯。む。  
現八。衝。と。寄。り。馬。上。生。拘。り。脇。脇。引。着。け。左。多。不。抱。は。く。動。せ。信。乃。力。を。勦  
せ。と。儘。大。路。小。寄。時。寄。隊。の。先。陣。重。勝。信。乃。不。損。れ。破。車。と。人。馬。の  
屍。骸。を。雜。兵。も。不。遣。棄。さ。さ。く。其。路。才。不。用。り。亦。復。戦。車。と。推。出。し。信。乃

們を趕へとのそを程。現八をその脇路より。咄と噓に。見れ。若。勇士。猛。卒。大。刀。風。  
當る。ゆ。も。あ。ら。び。り。寄。隊。の。士。卒。驚。れ。噪。ゆ。逃。ん。と。ま。り。と。白。石。重。勝。鷹。裂。衣。  
九。錐。布。五。六。怒。る。聲。と。震。立。く。建。一。兵。毎。小。勢。の。敵。不。然。も。く。怕。り。と。あ。る。早。く  
戦。車。と。牽。き。と。捕。網。と。皆。散。り。と。連。つ。鳴。罵。勵。其。駢。馬。の。車。兵。御。者。雜。兵。是。お  
氣。と。ゆ。許。多。の。車。と。遣。被。々。鉄。砲。を。發。か。ま。ん。と。構。る。現。八。見。つ。冷。笑。ひ。て。若  
們。も。是。を。知。さ。我。方。僅。も。あ。る。路。と。生。拘。る。這。壯。伎。は。是。若。們。が。頭。人。を。ひ。今  
倘。酒。家。の。敵。對。せ。先。這。奴。ら。首。戾。斫。後。若。們。を。劔。せ。我。を。誰。と。思。ふ  
ら。里。見。殿。の。御。内。に。て。然。る。者。あり。と。知。ら。れ。る。犬。士。の。隨。一。の。地。の。防。禦。使。犬。飼  
現。八。信。道。も。我。身。不。佩。る。靈。玉。あ。れ。ば。弓。前。鉄。砲。も。中。る。と。る。刀。劍。も。傷  
られ。然。る。若。們。白。札。の。輩。救。心。不。虎。鬚。再。と。掖。ち。欲。せ。同。士。數。も。不。似。く。這。奴。を。殺  
さん。い。ふ。を。ぞ。と。罵。啼。り。盛。実。を。抱。け。儘。不。覺。の。眉。廂。推。仰。反。せ。指。示



其吐嗟と敬驚く寄隊の衆兵就中白石重勝の慌々隊の頭人と錐布  
 鷹鳥裂們を招けり。他を見ざる敵の爲に掠らるる那社伎の紛ふも  
 あらぬ當家其權宰齋藤左兵衛佐高実の家子。齋藤兵衛太郎盛実  
 身と疑ひし盛実の故あり。館の鍾愛大なるぬ。今現八を撃ち捕は  
 とも那寵臣と亡き。館の怨とぬべけれ。惴りさせと。解諭其錐布鷹  
 鳥裂頭人等諸兵不憚る。敢動も車小添ふる儘も皆睨る在り。一  
 現八も然も。とら笑ひ。聲高やう若們知む。里見殿の世も罕る。死  
 仁君へ又我職分の防禦使。當の敵あらざれば。殺もせむ。殺しも其這奴  
 安房へ移り還り。我兩館の御上。自ら依らん先々との。頭を下知。隊の  
 兵を先よ。立。馬衆旋り。疾犬塚。追就ん。五十四田を投。退。去。  
 去。寄隊の士卒も勇も不勇も。只這英氣。不。阿容。と。と。長

視て居る敢赴ふ者。る。り。の。小。程。山。内。頭。定。の。戰。車。の。進。退。其。圖。不。當。り。  
 一旦其利あり。大塚信乃。敵を破。先陣重勝們。既。敗。績。の。實。え  
 あり。齋藤兵衛太郎盛実。大。飼。現。八。小。虜。を。お。と。去。と。と。知  
 ず。路。の。小。堪。ね。一。兩。時。の。あ。る。も。萬。騎。の。先。ち。後。陣。も。馬。を。走。せ。せ。り。小  
 末。猶。其。頭。末。と。質。問。重。勝。並。錐。布。五。六。鷹。鳥。裂。八。九。諸。頭。人。們。の  
 信。乃。現。八。が。獵。雄。る。他。們。の。里。見。の。先。鋒。の。兩。頭。人。杉。倉。直。元。田。祝。逸。友。の  
 敗。軍。を。援。る。小。間。道。より。不。意。不。意。戰。車。の。横。鎗。を。入。れ。ひ。路。陝。け。大。車。の  
 進。退。敢。又。自。由。る。且。三。連。車。の。總。括。る。盛。実。の。那。茂。林。の。頭。を。現。八。奴。の  
 虜。不。せ。れ。戰。車。の。頭。人。あ。る。を。做。り。那。現。八。を。追。伐。と。反。て。盛。実。を。殺。さ  
 せ。ん。と。思。ふ。る。小。士。卒。を。制。め。御。指。揮。を。請。ま。り。ぬ。異。口。同。調。小。陳。を。を  
 顯。定。听。う。聲。奇。立。る。を。分。説。る。ゆ。に。嘆。嗚。陝。け。し。ば。こ。を。究。竟。し。る。を。



風く戦車を先へ推させ、（うら）他路を遮らば、（うら）我大軍後より、（うら）差控り攻め  
せむ。且盛実をこそ復して、（うら）敵を衄ふまへ、（うら）小勢の犬士も氣を天れ、（うら）阿容  
阿容とて盛実を極むるごとく、（うら）不覚なれ好く、（うら）他們遠く去り、（うら）我追蒐く伐  
捕りてんと、（うら）敦圀に暴く罵る程不成、（うら）氏も亦在村素行等の老黨士卒を従  
へ、（うら）共侶不聚ひ、（うら）隨即事の趣を、（うら）顕定を寛解ひ、（うら）那大飼現公  
我舊臣を、（うら）罪ありと赦して、（うら）信乃を捕捕せむ欲せし、（うら）及て信乃を相決負け、  
俱亡命を、（うら）又大塚信乃、（うら）日暮小村雨の質刀を、（うら）我を欺き欲せし、（うら）の  
るも、（うら）刺那時我、（うら）許我の館を開せ、（うら）ヨク士卒を害ひ、（うら）兎奸を頼の、（うら）人  
るれ、（うら）捕へ、（うら）罪と正さ、（うら）思ふも久し、（うら）かけ、（うら）一霎時、（うら）那奴等を敵合、（うら）對陣せ、  
堪が、（うら）今より、（うら）酒家先、（うら）我を、（うら）犬追物の故実、（うら）獵箭、（うら）被く射、（うら）斃え、  
いせくと、（うら）邊、（うら）在村素行、（うら）あち、（うら）隊兵を、（うら）練習、（うら）み、（うら）真先

我び、（うら）顯定是を勇と、（うら）譽ぐ、（うら）則白石重勝と、（うら）錐布五、（うら）鷹鳥、（うら）列八、（うら）九、（うら）等、  
召近つけ、（うら）若們も、（うら）亦先、（うら）我を、（うら）許我殿、（うら）を相幫助、（うら）俱先、（うら）先度の、（うら）恥を  
雪め、（うら）その、（うら）罪亦、（うら）不覚の、（うら）穽、（うら）あ、（うら）其罪、（うら）決、（うら）七、（うら）赦、（うら）の、（うら）を、（うら）け、（うら）可、（うら）立、（うら）れ、  
大家、（うら）忻然と、（うら）言、（うら）美、（うら）あ、（うら）時、（うら）を、（うら）移、（うら）成、（うら）氏と、（うら）隊、（うら）兵を、（うら）合、（うら）現、（うら）八、（うら）信、（うら）乃、（うら）を、（うら）數、（うら）捕  
んと、（うら）戰、（うら）軍、（うら）を、（うら）率、（うら）蒐、（うら）々、（うら）夷、（うら）然、（うら）と、（うら）趕、（うら）ふ、（うら）程、（うら）小、（うら）顯、（うら）定、（うら）も、（うら）亦、（うら）憲、（うら）房、（うら）の、（うら）士、（うら）卒、（うら）を、（うら）率、（うら）く、  
陸續、（うら）と、（うら）總、（うら）軍、（うら）約、（うら）莫、（うら）四、（うら）萬、（うら）餘、（うら）名、（うら）騎、（うら）馬、（うら）の、（うら）歩、（うら）兵、（うら）も、（うら）後、（うら）れ、（うら）勢、（うら）の、（うら）只、（うら）星、  
波、（うら）の、（うら）磯、（うら）打ち、（うら）如、（うら）く、（うら）五、（うら）十、（うら）四、（うら）田、（うら）を、（うら）投、（うら）趕、（うら）ふ、（うら）時、（うら）大、（うら）飼、（うら）現、（うら）八、（うら）信、（うら）道、（うら）の、（うら）既、（うら）小、（うら）寄、（うら）隊、（うら）の  
衆、（うら）兵、（うら）を、（うら）思、（うら）ひ、（うら）隨、（うら）小、（うら）權、（うら）懲、（うら）し、（うら）五、（うら）十、（うら）四、（うら）田、（うら）の、（うら）陣、（うら）當、（うら）時、（うら）假、（うら）名、（うら）町、（うら）の、（うら）茂、（うら）林、（うら）邊、（うら）を、  
距、（うら）る、（うら）約、（うら）七、（うら）八、（うら）町、（うら）許、（うら）三、（うら）丈、（うら）許、（うら）小、（うら）流、（うら）あり、（うら）土、（うら）人、（うら）是、（うら）を、（うら）長、（うら）阪、（うら）川、（うら）と、（うら）喚、（うら）做、  
たり、（うら）長、（うら）阪、（うら）村、（うら）不、（うら）近、（うら）けれ、（うら）其、（うら）水、（うら）原、（うら）の、（うら）遠、（うら）く、（うら）も、（うら）あ、（うら）る、（うら）猴、（うら）股、（うら）河、（うら）より、（うら）引、（うら）て、（うら）來、（うら）て、（うら）田、（うら）甫、（うら）の  
用水、（うら）小、（うら）あ、（うら）る、（うら）架、（うら）る、（うら）地、（うら）橋、（うら）あり、（うら）長、（うら）阪、（うら）橋、（うら）即、（うら）是、（うら）なり、（うら）問、（うら）詰、（うら）休、（うら）題、（うら）然、（うら）ハ



現八も。這橋の上まで退かぬ時權且馬を推駐め。挟むる齋藤盛  
実を士卒不慮與一綁らむ。却隊の小頭人們を馬の左右に召さるる寄  
隊の先陣白石重勝の鈍も我の權され。追趕せしめられ。頭定必  
怨怒り。大軍を招く。趕蒐あつべし。我生拘り。其杜校を知る者あり  
生口を聞き。他の齋藤高実の冢子にて。齋藤兵衛太郎盛実と喚做さ  
者即是。初頭定不扈從して。龍陽の寵あり。今も其餘波を重く用ひらるる。  
然る頭定他を惜て。復さむ。欲さるる。非如頭定戰車。去向路を断ま  
く。豈怖る。小足る者。や我猶一需要時。待つ。來る敵を推退。然して  
其勢の要る。汝達其生口盛実を隊の兵毎に牽せて。皆共召し退く。是を  
趣を疾。大塚小報知せて。我還るを待ねり。大塚必城の入り。戰車を防備を  
お餘の日の箇様々。と意束を示さ。究竟も。士卒二千名を這里に在らむ。

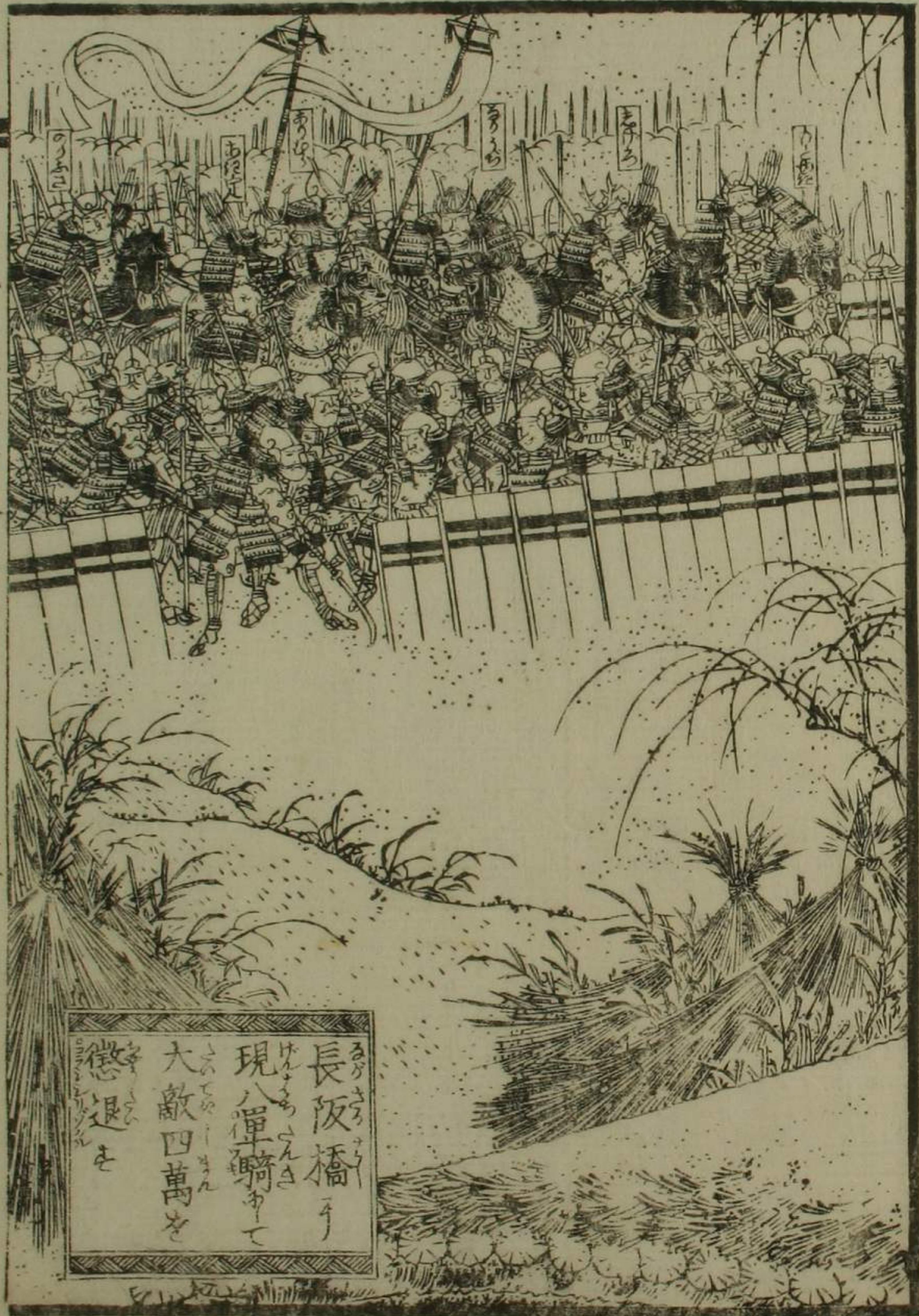
兵の従ふこと。饒さ。寔不現八が大胆。いふ事やと思ふ。心許る。所ゆえ。  
否といふ。いふ事や。大家只得。心を。却盛実を牽立。五十四田を投て退死  
去る。現八一需要時。目送り。則馬の左右に在る。雄兵二十名。指示せしむ。  
若們皆先那里。見よ。這里を距る。一二町。那里の路の左右。処々。楯巨  
ま。敗縮塚。多く。敏。立ち。細竹の冬樹。小本林。雜。是。我  
兵。用。究竟の地方。若們。へ。く。鎧砲。と。擧。稻塚。小本林。の。裡。小。躰  
ま。敵の。趕蒐。來。ぬ。を。俟。ね。寄。隊。戰。車。と。先。あり。那里。ま。來。ぬ。我。を見。か  
疑。ひ。惑。ふ。躊。躇。べ。し。の。折。我。怨。と。喚。る。を。暗。誦。し。く。左。右。齊。一。大。銃。を  
發。ち。戰。車。を。擊。破。り。孫。寄。隊。必。驚。に。慌。く。一。旦。の。退。く。敵。退。く。も。趕  
ふ。べ。し。若。們。の。折。早。く。引。揚。ぐ。我。俱。一。五。十。四。田。へ。還。ら。ぬ。今。我。方。計  
る。所。大。々。差。左。へ。胆。を。肥。し。て。怖。る。と。皆。よ。く。せ。と。解。諭。せ。て。大。家



礮議を其意をゆる。別を件の物蔭に。躰れ敵を俟けり。憊而那  
身一騎自若と。橋の邊に在り。現八の足打扮の草緑紙の札を  
鎧の龍頭あり五枚。兎の緒を縛り。猪頭を戴り。石青の故金襴の戰袍。赤  
黒金装の大刀。戒刀柄のし首と腰。小跨へ細目細鏢の針十玉頭。脛衣。夏  
曳の上總麻の重底。多戰鞋の締高。を。短短の穿。做。驪馬の太く遅く  
深絳の厚總垂。貝錦の磨鞍。白と此糸と。漆分と。腰勒。寛  
うち乗り。左も小三刃尖の鎧の丈二柄。多を扱。前。面。を。位。と。見。目。下。た。馬  
上の居長最高。其武者態。九庸。を。臥。登。の。眉。丹。朱。の。唇。眼。の。雙。之。海  
星の如く。齒へ軌の實。似。面。の。色。淡。黒。く。髯。の。迹。蒼。蒼。り。ける。這。個。蓋。世。は。大。丈  
夫。南。總。八。大。隨。一。人。里。見。氏。股。肱。の。俊。傑。と。の。り。でも。知。る。は。面。魂。坡。堤。の。世。花  
霜。枯。れ。て。招。く。も。る。寒。風。の。馬。の。息。遠。を。避。く。吹。く。威。風。正。可。の。凜。然。と。介。程。の

寄隊山内。許我の両老黨。白石城。以重勝。横堀史。在村。先鋒。三連車。の  
頭人。錐布。五。六。鷹。鳥。裂。八。九。新。織。帆。太。夫。が。幾。千。百。の。兵。を。お。り。馬。を。趕。せ  
車。と。轉。せ。那。二。天。士。を。捕。籠。で。血。み。せ。と。く。い。そ。間。を。離。れ。馬。を。早。め。て。あ  
二隊の軍兵。二萬餘騎。又是。加。る。兩。大。將。一。副。將。頭。定。成。氏。憲。房。も  
各其隊の士卒。と。找。る。大。兵。都。て。四。萬。餘。名。長。阪。川。近。く。來。ぬ。程。先。鋒。の  
隊長。重勝。在。村。へ。お。至。り。士。卒。と。共。お。こ。ら。れ。前。面。有。る。橋。の。邊。に。甲。冑。を  
武者一騎。馬。を。這。方。に。推。向。け。端。然。と。一。と。敢。動。を。其。鎧。の。絨。色。に。紛。ふ  
へ。も。あ。ら。ぬ。ま。ま。我。も。士。卒。も。認。得。得。現。八。の。思。ひ。が。他。の。什。麼。と。さ。り。小  
御者。と。士。卒。と。喚。林。林。り。車。と。此。一。推。戻。を。止。と。さ。り。小。坂。言。れ。錐。布。五。六  
鷹。鳥。裂。八。九。又。新。織。帆。太。夫。も。衆。兵。都。く。疑。惑。ふ。眼。と。睜。り。息。を。籠  
あ。く。敢。一。步。も。找。む。者。を。開。が。中。小。白。石。重。勝。の。馬。を。横。堀。在。村。の。身。邊。に。乘





長阪橋  
 現八陣騎  
 大敵四萬を  
 征退す



八

宗泉



と各うち向ひく。和殿いふ思ひぬる。那現八が只一騎。那里我大兵を誘引し、  
欲まらん。必是計畧あらん。然るも漫推蒐く。倘又失あるる。再犯の罪を  
争何んせん。といへ。在村。點頭。然りと。その義を。那大飼現八奴が。梟雄の本  
事。豫我よく知ぬ。一騎へと。侮るべく。卒。西大將の。御上。と。伺。後陣  
へ。とい。と。程。小。顯定成氏。憲房。も。大兵。を。ね。く。束。ふ。け。れ。重勝。と。在。村。の。馬。より。下  
立。相。迎。へ。俱。後。方。と。見。り。つ。遙。小。現。八。を。指。し。示。さ。く。其。進。退。を。請。問。ふ。  
顯定成氏。憲房。の。俱。馬。上。の。頸。と。伸。し。く。望。む。と。半。响。許。疑。惑。の。眉。を  
顯。卑。る。の。と。こ。も。り。る。と。成。氏。の。尋。思。の。憶。を。傾。け。頭。鎧。ふ。も。と。日。緒。を。締。て  
顯定。向。ひ。く。の。中。那。奴。の。咱。等。が。舊。臣。を。心。術。本。事。知。さ。る。と。非。如。今。少  
許。の。計。畧。あ。り。と。も。寡。の。衆。の。敵。を。べ。く。は。戰。車。と。先。轉。し。蒐。て。較。す。勝  
ざる。と。あ。ら。う。と。惴。と。顯定。推。禁。め。く。开。る。勿。論。の。さ。ら。見。ぬ。那。里。小。

川あり。現八橋をうち渡して。那方の岸へ退か。戰車を行ら。甲斐あり。といふ。  
憲房も俱ふ。加。以。那。地。橋。の。最。小。ゆ。危。は。る。車。を。遣。ふ。中。絶。ん。那  
奴。其。地。の。利。の。據。り。我。を。侮。り。遊。ぶ。る。憎。さ。も。憎。し。と。敦。園。の。二。將。隊  
長。諸。頭。人。重。勝。も。在。村。も。雖。布。五。六。雁。鳥。裂。八。九。士。卒。も。俱。思。難。く。皆。計。の  
あ。る。所。を。知。ら。ず。徒。呆。然。と。口。を。鉗。き。不。覚。の。時。を。殺。し。け。り。有。徳。り。程。小。大。飼  
現八。を。豫。て。計。り。所。小。差。を。寄。隊。四。萬。の。大。將。士。卒。戰。車。を。遣。先。小。建。く。  
那里。まで。來。て。敢。找。せ。む。俗。云。不。動。の。禁。縛。然。ら。む。林。示。足。の。祈。禱。小。遇  
る。衆。狂。人。狄。群。盜。も。異。る。べ。く。も。あ。ら。ざ。れ。現八。然。し。と。合。笑。く。程。を。料。り。と。ち  
見。て。在。り。既。中。寄。隊。の。大。兵。隊。伍。を。乱。し。相。叫。く。者。多。り。け。れ。現八。遙。小  
相。濟。し。鐘。踏。張。り。鞍。局。小。立。揚。る。聲。高。や。寄。隊。の。人。々。疾。蒐。け。ま。や  
許。我。殿。の。御。内。中。俣。人。在。村。を。首。中。我。を。認。れ。る。も。更。ら。ん。今。更。名。告。る。の



要るけれども、山内殿の初見参入我姓名を望表不寫して各護身符のせ。  
 昔の濟我の一小卒其罪小あはれく久あく縲綆の中在り一身の階玉下和  
 撰擇不逢き。今千里見の防禦使用する大飼現八金碗宿祢信道を即  
 我之寄隊四萬の衆中恥を知り名を惜む勇士のた然猛將のあをき只  
 是一騎の敵不怖れて進む者るた其甚麼を疾々敷ねと喚れ成氏憲房  
 怒のふゆ堪む俱ふ来配ら揮き蒐れくと先鋒を罵る其聲遅し那時速  
 去左右の隈ある小木の蔭敗稻塚の透よりしく大飼が隊兵等の齊一槓と  
 發出を二千挺多の大銃小寄隊の戰車七八乘車上の兵も御者馬さ俱不  
 塵非粉ふ打摧れて免る者あるとさされか恙るるり士卒まで胆を潰して苦と叫ぶ聲  
 共信ふ帆大丈の憶を鐘を踏外して馬も控と階下へ衆兵都て吐と頼れ引板  
 驚く群禽の激と立像く逃へ先鋒の頭入後陣の三將重勝在村へはる成

氏憲房顯定のある什麼とむる不勢ひ林の據もむ。群れ蒐り一躬方の為ふ推  
 戻され罵るの心とも多く乱走し假名町まで退けた意不犬飼現八がその  
 目の進止勇多武昔漢末三國の始ふ方り劉皇叔玄德が荊州の關戰敗れ  
 曹操が百萬の大軍を逐れ時劉備の勇將燕人張飛が身只一騎馬を  
 駐り長坂橋の上あり其百萬の敵兵を罵退ける其勇一對橋の名さ相似  
 たる事の勢愉快を見む和漢今昔もる前硯われ後筆るた不あ看  
 官坐不含笑れ後回誰何と思ふむべ。問話休題登時大飼現八も四萬の寄  
 隊立足もる車を奪取を倒中て逃一人もあはれり伏る隊兵を招たも  
 る不隨即二千個の雄兵も又鎧砲を推考物の子陰より出く造化至妙と散動  
 くと現八急喚近つて若們那圖と差さける榊は極めて好那見よ寄隊の  
 奪取の戰車猶那里もるむ皆打摧れ馬を奪略る後戰其利む然







